



▲写真1:ヨメナ

## 理学部附属 植物園のいきものたち

第17回

今月はキク科の花を2種紹介します。秋の深まりを感じてください。

写真1(上):ヨメナ(*Kalimeris yomena* Kitam. キク科)

関西地方を代表する秋の花です。写真ではなかなかうまく表現できないのですが、ヨメナ色とでも言うべき群青にちかい薄青紫の花が咲きます。いかにもキク科らしい大きな頭花をつけますし、万葉のころより春先の若菜摘みとはヨメナ摘みを指すほど、身近にそして非常にたくさん生息しています。しかしながら現代では、一般の認知度は驚くほど低いようで、花屋さんのミヤコフスレや宿根アスターといわれる花たちの存在感におされてしまっています。ぜひ一度、みなさんの身のまわりで見つけてほしい花です。

写真2(下):ヨモギナ(*Artemisia lactiflora* Wall. ex. DC キク科)

その名の通りヨモギにきわめて近縁な多年生草本ですが、国内の植物園などでもあまり育てられていないようです。植物園にあるのは中国から導入されたものですが、それから30年以上たった現在も園内で命を繋ぎつづけています。多年生といっても寿命は3-10年程度といわれているので、どのようにして次の世代をつくっているのか気になるところです。ヨモギ属は*Artemisia*属といいますが、お産婆さんの女神アルテミスの聖草だったことにちなんでいます。これらが洋の東西を問わず止血、健胃、分娩促進、駆虫、魔除けなど多方面に用いられてきたなじみ深い薬草であることをうかがわせます。

このヨモギナは、今月どうしても掲載したかった植物なのですが、残念ながら開花が間に合いませんでした。

(写真・解説 今村彰生、2004年9月30日撮影)



▲写真2:ヨモギナ